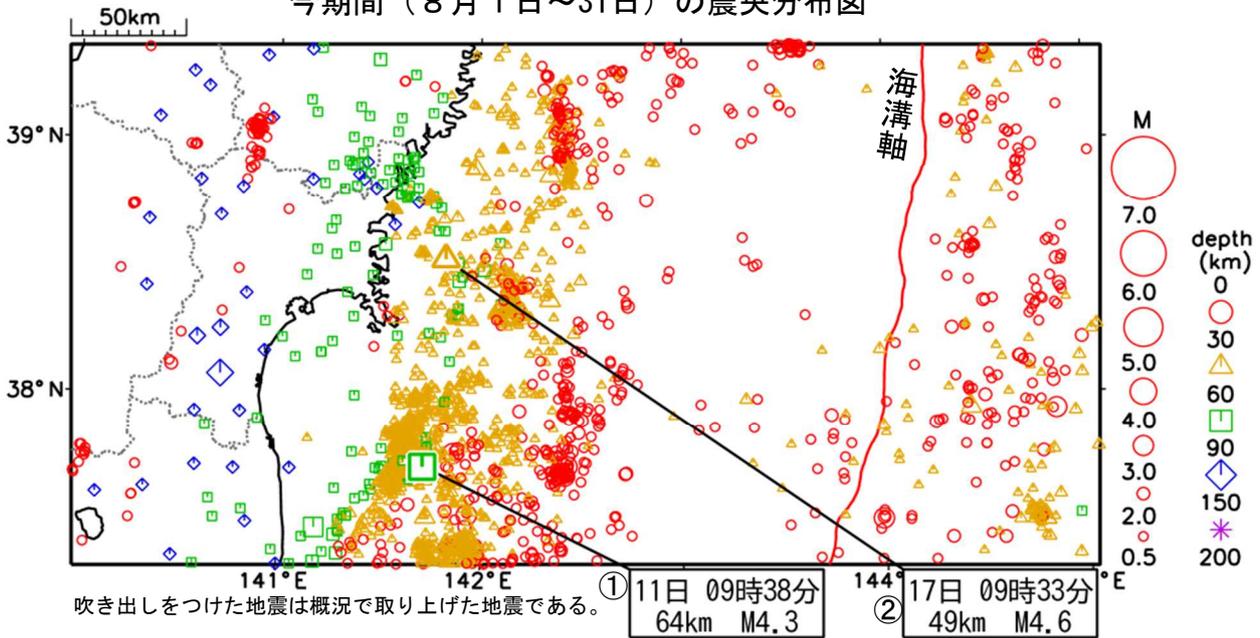


宮城県月間地震概況

2024年 8月

仙台管区気象台

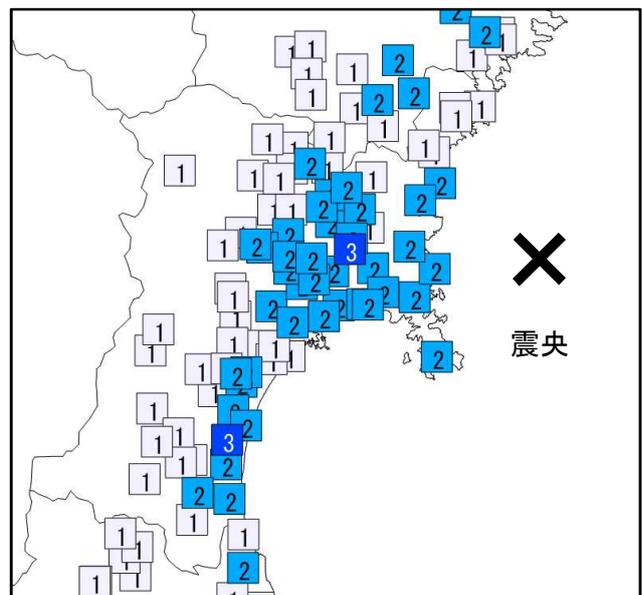
今期間（8月1日～31日）の震央分布図



[概況]

今期間、宮城県内で震度1以上を観測した地震は9回（7月：16回）であった。このうち、宮城県内で震度3以上を観測した地震は1回（7月：2回）であった。

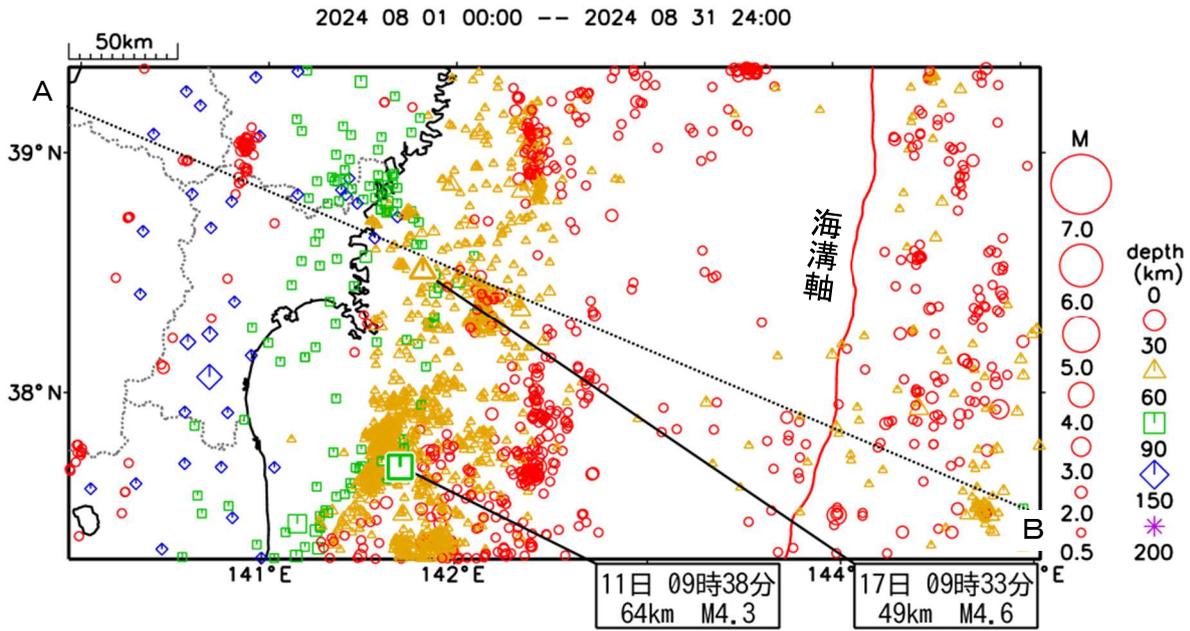
- ① 11日09時38分に福島県沖の深さ64kmでM4.3の地震が発生し、角田市などで震度2を観測した。この地震の震源周辺では2021年2月13日にM7.3の地震（深さ55km、蔵王町で震度6強、宮城県内で死者1人、負傷者64人）が、2022年3月16日にはM7.4の地震（深さ57km、登米市、蔵王町で震度6強、宮城県内で死者2人、負傷者108人）が発生している（被害は総務省消防庁による）。
- ② 17日09時33分に宮城県沖の深さ49kmでM4.6の地震が発生し、石巻市と岩沼市で震度3を観測した（右図）。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の地震の震源付近は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降地震活動が活発で、M4～5の地震が時折発生している。



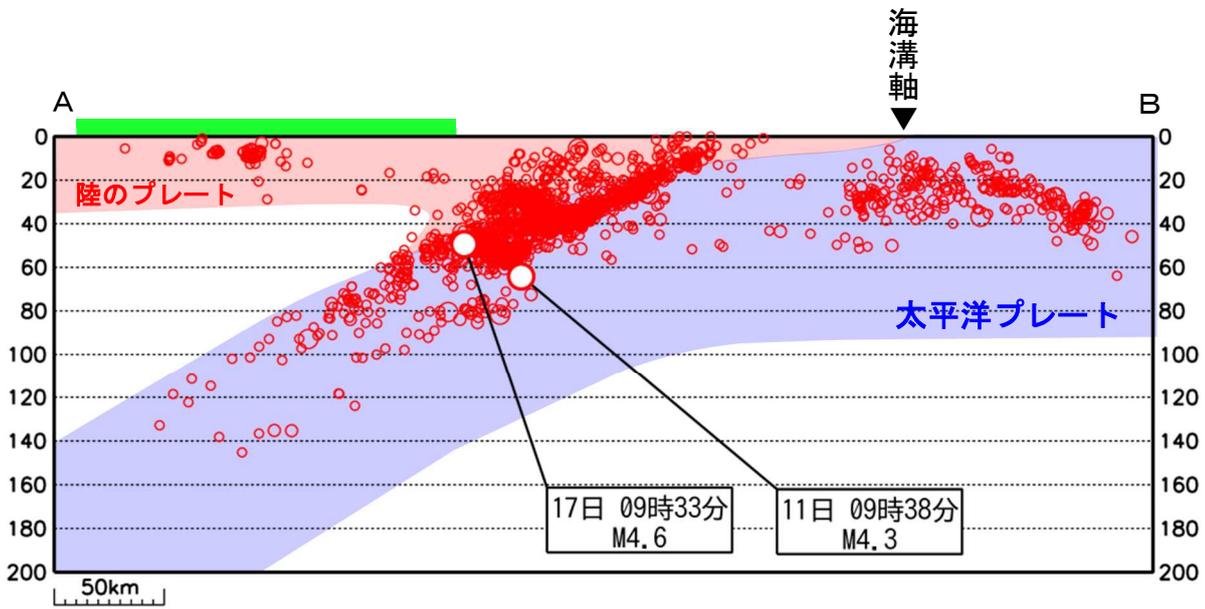
8月17日09時33分 宮城県沖の地震
（深さ49km、M4.6）の観測点別震度分布

各地の震度については「宮城県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】 断面図は震央分布図内の震源を直線A－Bに投影したものである



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※海溝軸付近から沖合の地震の震源は深さの精度が十分でないものも含まれており、
実際は浅いところ（深さ10km～30km）のものが多いと考えられる。

宮城県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2024年 8月 1日～2024年 8月31日

発生時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2024年08月01日23時51分	福島県沖	37° 10.7' N	142° 11.1' E	20km	M4.5
宮城県	震度 1	白石市亘理町* 名取市増田* 角田市角田* 岩沼市桜* 蔵王町円田* 宮城川崎町前川* 山元町浅生原* 石巻市桃生町* 利府町利府*			
2024年08月10日12時28分	オホーツク海南部	46° 47.8' N	145° 00.3' E	447km	M6.7
宮城県	震度 2	登米市迫町*			
	震度 1	気仙沼市赤岩 気仙沼市笹が陣* 栗原市栗駒 栗原市築館* 栗原市高清水* 栗原市若柳* 栗原市一迫* 登米市中田町 登米市登米町* 登米市南方町* 登米市米山町* 宮城美里町木間塚* 大崎市古川三日町 大崎市松山* 大崎市田尻* 角田市角田* 岩沼市桜* 丸森町鳥屋* 亘理町悠里* 仙台宮城野区苦竹* 石巻市大街道南* 石巻市相野谷* 石巻市前谷地* 石巻市桃生町* 東松島市矢本* 松島町高城 利府町利府*			
2024年08月11日09時38分	福島県沖	37° 42.9' N	141° 43.0' E	64km	M4.3
宮城県	震度 2	角田市角田* 亘理町悠里* 石巻市桃生町* 東松島市矢本*			
	震度 1	気仙沼市笹が陣* 気仙沼市唐桑町* 色麻町四竈* 涌谷町新町裏 栗原市栗駒 栗原市築館* 栗原市瀬峰* 栗原市高清水* 栗原市一迫* 登米市中田町 登米市東和町* 登米市豊里町* 登米市南方町* 登米市迫町* 登米市石越町* 登米市米山町* 大崎市古川三日町 大崎市古川大崎 大崎市古川旭* 大崎市松山* 大崎市鹿島台* 大崎市田尻* 白石市亘理町* 仙台空港 名取市増田* 岩沼市桜* 蔵王町円田* 大河原町新南* 柴田町船岡 宮城川崎町前川* 丸森町上滝 丸森町鳥屋* 山元町浅生原* 仙台青葉区大倉 仙台青葉区作並* 仙台青葉区落合* 仙台宮城野区五輪 仙台宮城野区苦竹* 仙台若林区遠見塚* 仙台太白区山田* 仙台泉区将監* 石巻市泉町 石巻市鮎川浜* 石巻市大街道南* 石巻市北上町* 石巻市雄勝町* 塩竈市今宮町* 多賀城市中央* 東松島市小野* 松島町高城 七ヶ浜町東宮浜* 利府町利府* 大郷町粕川* 大衡村大衡* 女川町女川* 富谷市富谷*			
2024年08月17日09時33分	宮城県沖	38° 32.0' N	141° 49.6' E	49km	M4.6
宮城県	震度 3	岩沼市桜* 石巻市桃生町*			
	震度 2	涌谷町新町裏 栗原市若柳* 登米市中田町 登米市豊里町* 登米市登米町* 登米市南方町* 登米市迫町* 登米市米山町* 南三陸町志津川 南三陸町歌津* 宮城美里町北浦* 宮城美里町木間塚* 大崎市古川三日町 大崎市古川旭* 大崎市松山* 大崎市鹿島台* 大崎市田尻* 仙台空港 名取市増田* 角田市角田* 亘理町悠里* 山元町浅生原* 仙台宮城野区五輪 仙台宮城野区苦竹* 仙台若林区遠見塚* 石巻市泉町 石巻市大瓜 石巻市鮎川浜* 石巻市大街道南* 石巻市北上町* 石巻市相野谷* 石巻市前谷地* 石巻市雄勝町* 東松島市小野* 東松島市矢本* 松島町高城 大郷町粕川* 女川町女川*			
	震度 1	気仙沼市赤岩 気仙沼市本吉町西川内 気仙沼市笹が陣* 気仙沼市唐桑町* 気仙沼市本吉町津谷* 宮城加美町中新田* 栗原市栗駒 栗原市築館* 栗原市瀬峰* 栗原市志波姫* 栗原市高清水* 栗原市金成* 栗原市一迫* 登米市東和町* 登米市石越町* 登米市津山町* 大崎市古川大崎 大崎市鳴子* 白石市亘理町* 蔵王町円田* 大河原町新南* 村田町村田* 柴田町船岡 宮城川崎町前川* 丸森町鳥屋* 仙台青葉区大倉 仙台青葉区作並* 仙台青葉区雨宮* 仙台青葉区落合* 仙台太白区山田* 仙台泉区将監* 塩竈市今宮町* 多賀城市中央* 七ヶ浜町東宮浜* 利府町利府* 大和町吉岡* 大衡村大衡* 富谷市富谷*			
2024年08月19日00時48分	茨城県北部	36° 43.4' N	140° 37.5' E	7km	M4.8
宮城県	震度 2	角田市角田* 岩沼市桜* 丸森町鳥屋*			
	震度 1	宮城加美町中新田* 登米市南方町* 登米市迫町* 宮城美里町木間塚* 大崎市古川三日町 大崎市田尻* 白石市亘理町* 蔵王町円田* 大河原町新南* 村田町村田* 柴田町船岡 宮城川崎町前川* 丸森町上滝 亘理町悠里*			

発 生 時 刻	震 央 地 名	北 緯	東 経	深 さ	規 模
	各地の震度 山元町浅生原* 仙台青葉区大倉 仙台青葉区落合* 仙台宮城野区苦竹* 石巻市大街道南* 石巻市桃生町* 松島町高城 利府町利府*				
2024年08月19日00時50分	茨城県北部	36° 43.0' N	140° 37.2' E	8km	M5.1
宮城県	震度 2 : 大崎市田尻* 角田市角田* 岩沼市桜* 蔵王町円田* 大河原町新南* 丸森町鳥屋* 山元町浅生原*				
	震度 1 : 宮城加美町中新田* 色麻町四竈* 栗原市高清水* 登米市中田町 登米市南方町* 登米市迫町* 登米市米山町* 宮城美里町木間塚* 大崎市古川三日町 大崎市古川大崎 大崎市松山* 大崎市三本木* 白石市亙理町* 仙台空港 名取市増田* 七ヶ宿町関* 村田町村田* 柴田町船岡 宮城川崎町前川* 丸森町上滝 亙理町悠里* 仙台青葉区大倉 仙台青葉区作並* 仙台青葉区雨宮* 仙台青葉区落合* 仙台宮城野区五輪 仙台宮城野区苦竹* 仙台若林区遠見塚* 仙台太白区山田* 仙台泉区将監* 石巻市大街道南* 石巻市前谷地* 石巻市桃生町* 東松島市小野* 東松島市矢本* 松島町高城 利府町利府* 大和町吉岡* 大衡村大衡*				
2024年08月27日21時46分	福島県沖	37° 51.7' N	141° 37.7' E	50km	M3.8
宮城県	震度 1 : 角田市角田* 山元町浅生原*				
2024年08月30日18時30分	福島県沖	37° 49.9' N	141° 36.4' E	50km	M3.9
宮城県	震度 1 : 角田市角田*				
2024年08月31日16時40分	福島県沖	37° 38.8' N	141° 30.5' E	56km	M3.9
宮城県	震度 1 : 岩沼市桜*				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査の後、変更することがある。

各地の震度は宮城県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

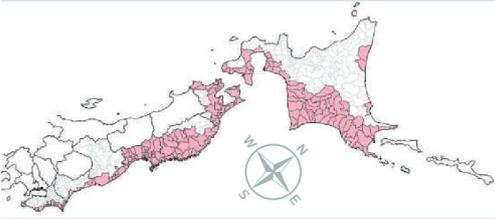
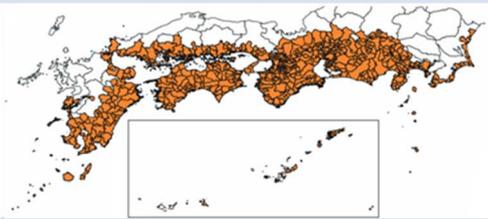
北海道・三陸沖後発地震注意情報 と南海トラフ地震臨時情報

気象庁は、2024年8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を初めて発表しました。この発表を受けて、南海トラフ地震防災対策推進地域では、日頃からの地震への備えの再確認や、地震が発生した際にすぐに避難できる準備などが呼びかけられました。この呼びかけは、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された際の呼びかけと同じです。そこで、南海トラフ地震臨時情報と比較しながら、あらためて、北海道・三陸沖後発地震注意情報について解説します。

想定される巨大地震と防災対応が必要な地域

南海トラフ地震臨時情報が対象としている地震は、南海トラフ地震という東海地方から九州にかけての太平洋側の沖合での発生が予想されている巨大地震です。対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報が対象としている地震は、三陸沖から北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）での発生が予想されている巨大地震です（表1）。いずれの地震も、強い揺れと巨大な津波により、甚大な被害が想定されています。そして、この被害を少しでも軽減するための情報として、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報が運用されています。

表1 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報が対象としている想定地震

	北海道・三陸沖後発地震注意情報	南海トラフ地震臨時情報
想定する最大クラスの地震の規模	Mw9.3（千島海溝モデル） Mw9.1（日本海溝モデル）	Mw9.1
想定震源域・想定最大震度・想定津波高など		
被害想定（最大）	死者・行方不明者 約199,000人	死者・行方不明者 約323,000人
防災対応が必要な地域		

- ※ 地震の想定等は、内閣府中防災会議により南海トラフ地震防災対策、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策のために行われた検討会・ワーキンググループ等の報告による。
- ※ 被害想定（最大）は、それぞれの地震の被害想定に関する報告の中で、最悪のケースとされている数値を記載。
- ※ Mw：モーメントマグニチュード（地震波形全体を詳細に解析することで得られるマグニチュードで断層の面積と断層すべり量の積に比例する。物理的な意味が明確で、M8.0を超える地震に対しても適切な値を求められるという特徴がある。）

北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の違い

北海道・三陸沖後発地震注意情報も南海トラフ地震臨時情報も、巨大地震の発生可能性が高まっていることをお知らせする情報であるという点では同じです。しかし、南海トラフ地震臨時情報は、状況によって呼びかける内容が異なることから、それに応じたキーワードを付して発表するのに対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報にはキーワードは無く、発表された際に呼びかける内容は固定となっているという大きな違いがあります（表2）。

表2 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の発表条件と呼びかけ内容

情報名（キーワード）	発表条件	呼びかけ内容
北海道・三陸沖後発地震注意情報	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）に該当する場合を除く）したと評価 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域内のプレート境界でMw8.0以上の地震が発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 事前避難 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（調査中）	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いの大規模な地震と関連する可能性がある現象や地震を観測し、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催 	なし
南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	<ul style="list-style-type: none"> 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」により、観測された現象が（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）の発表条件に当てはまらないと評価 	なし

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときは何をすればよい？

情報が発表されて、防災対応が呼びかけられている間（発表から1週間程度）、通常どおりの生活（学校に行ったり、仕事をしたり）を送りつつ、普段より巨大地震の発生に注意し、**日頃からの地震への備えの再確認、すぐに避難できる態勢の準備などを行ってください。**

日頃からの地震への備えの具体例としては、水や食料の備蓄や簡易トイレ、防寒具などの避難生活に必要なものの再確認、避難場所・避難経路や家族との連絡手段の再確認、家具の固定や高い場所にある物の転倒・落下防止対策の再確認などがあります（図1）。



図1 日頃からの地震への備え（リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より）

また、すぐに避難できる態勢の準備の具体例としては、避難情報を確実に取得できるようにしておく（スマートフォンや防災無線受信機等の音量アップなど）、スマートフォン等の情報を取得できる機器の予備バッテリーの準備、屋内の安全な場所での生活（がけに近い部屋から離れるなど）、非常持ち出し品の常時携帯（就寝時でもすぐに持ち出せるように準備）、すぐに逃げられる服装での就寝などがあります（図2）。



図2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの防災対応
（リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より）

なお、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されているからといって、防災対応が必要な地域（情報の対象地域）への旅行や出張を中止しなければならない、というわけではありません。普段より巨大地震発生の可能性が高まっているとはいえ、発表期間の1週間に発生する確率は100回に1回程度です。ただし、緊急情報の取得態勢の確保に加えて、訪問先の市区町村からのお知らせや交通状況、宿泊先や施設等の営業状況を事前に確認し、適切な行動を心がけるようにしてください。

世界の大規模地震のデータより、過去100年程度の間（1904～2017年）に発生したMw7.0以上の地震1,477回のうち、発生後7日以内に、その地震が発生した場所から500km以内の領域でMw7.8以上の地震が発生したのは17回であり、発生頻度は100回に1回程度である。なお、最初の地震がMw8.0以上の場合は104事例で、そのうち9事例でMw7.8以上の地震が発生している。

日頃からの地震の備えを忘れずに！

北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表期間の1週間に、大きな被害を伴うような大地震が発生しないことがほとんどです。たとえ、情報発表時に地震が起らなかったとしても、「空振り」と捉えるのではなく、防災意識の向上につなげる「素振り」（＝良い練習ができた）と捉えましょう。また、何の前触れもなく巨大地震が発生する場合があります。**突発的に大きな地震が発生した場合に備えて、日頃から地震への備えを徹底しましょう。**そのうえで、「北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された時には、その備えを再確認するようにしましょう。